

## 第4回「広葉樹二次林の施業上の取扱いに関する検討会」 概要

日 時	令和6年2月29日（木）9：30～11：30
開催方法	Web 会議ツール（Microsoft Teams）を用いたオンライン会議
出席委員	岡野 哲郎（信州大学 学術研究院 森林・環境共生学コース 教授） 酒井 武（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林植生研究領域 チーム長（針広混交林施業担当）） 竹田 慎二（飛騨市役所 農林部 林業振興課長） 横井 秀一（岐阜県立森林文化アカデミー 特任教授）※座長 横山 隆一（公益財団法人 日本自然保護協会 参与） (五十音順、敬称略)
議 事	とりまとめ（案）について

議事概要（とりまとめ（案）に対する意見の概要）	
1	<p>本検討会の趣旨等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見なし。</li> </ul>
2	<p>局管内の広葉樹二次林の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図1-1（薪炭等利用林分の齢級別面積）で「広葉樹少」、「中庸」、「広葉樹多」のそれぞれの割合を説明しているが、蓄積割合なのか面積割合なのかを明記すべき。</li> <li>・表2-1（薪炭等利用林分における広葉樹の代表樹種及び面積）及び表2-2（漸伐施業林分・植林地由来の針広混交林における広葉樹の代表樹種及び面積）における上位3つの代表樹種については、調査簿上で樹種が特定されているもののみが集計されているが、本文をよく読まないとそのことが分からない。また、表1（森林計画区毎の広葉樹二次林の面積）の面積と比較して、代表樹種の面積がかなり小さい理由を説明すべき。なお、樹種が特定されていない広葉樹は「その他L」とされている場合が多いと思うが、今後、有用樹種の特定に取り組んでいくことが重要ではないか。</li> <li>・表2-1及び表2-2におけるブナやミズナラの抽出できる面積は限られており、それらが圧倒的に優占しているわけではないことを本文でも説明すべき。また、(1)「広葉樹二次林の面積等」(P4)において、「ミズナラやブナ、カンバ類が代表樹種となっている」としているが、表2-1及び表2-2からそのことが読み取れるのか、疑問である。</li> </ul>
3	<p>広葉樹二次林における多面的機能の発揮に関する考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の管理経営の指針では、広葉樹の伐期齢が180年となっているが、放置さ</li> </ul>

れた薪炭林をはじめとした広葉樹二次林において、資源の有効活用も含めた施業を検討するに当たり、施業群の新設や伐期齢の見直しが必要ではないか。

- ・第2(3)でナラ枯れ被害に触れていることも踏まえて、林地保全の観点から、影響及び被害林分を健全化するための伐採や予防的な伐採、更新等の施業方法等について言及してもよいのではないか。

#### 4 広葉樹二次林の現地検討

- ・各現地検討箇所の大凡の標高を記載してほしい。
- ・現地検討箇所を位置図で示すことで、より分かりやすくなるのではないか。
- ・(1)「薪炭等利用林分」、(2)「漸伐施業林分」については、イの「施業の必要性」(それぞれ P13、P14)において、公益的機能の評価を踏まえた施業の必要性について記載しているが、(3)「植林地由来の針広混交林」については、イの「施業の必要性」(P17)においては、今回検討する4つの機能についての評価に触れていないので、追記すべき。

#### 5 今後の取組の方向性

- ・(1)アの「生物多様性保全機能の発揮の観点から」(P18)の「しかし、現地検討を行った薪炭等利用林分や漸伐施業林分のように、」の後ろに「比較的標高の高い地域で」という文言を追加した方がよい。現地検討を行った箇所よりも標高が低い林分の場合、過去に薪炭林として利用されていた箇所では、薪炭利用を再開させた方が、種の多様性の向上に貢献する場合もあると考える。
- ・(1)ウの「水源涵養機能及び木材等生産機能の発揮の観点から」(P18)の3段落目の「木材等生産機能」に関する記述について、森林資源の有効活用を進めていく箇所の条件や考え方を更に整理していけば、事業として実際に動くのではないか。
- ・第1(1)「本検討会の趣旨」において、ナラ枯れ被害やニホンジカによる被害に触れているが、特にナラ枯れについては、広葉樹林において非常に問題になってくるので、本項において、早期発見のためのモニタリングや巡視等をしっかり行っていく旨を記載すべきである。
- ・とりまとめにおいては、実証的であっても広葉樹資源の有効利用につながる取組が進められていくことを、明確に記載してほしい。数年後には、それを足がかりとして事業が行われていくことを期待したい。

－ 以 上 －